

中日動詞時制表現についての対照研究

楊 永娟

要旨

ある動作や状態について、過去・現在・未来など「時」が異なる場合、どのように表現するのかは、動詞の語形変化を中心に観察できる。本研究は日本語の動詞時制に対する中国語表現を考察するものである。この考察を通じて、中国語の単文において、動態助詞「了」と「过」は過去のテンスを、「着」は（進行または継続中にある）現在のテンスを表す。動態助詞「了、着、过」に対して、動詞の後ろになにも入らないときの形態を「0（ゼロ）動態助詞」と呼ぶことにすれば（孫 2005）、「0 動態助詞」は一般現在または未来のテンスを表すと言える。

キーワード：時制、中日対訳、動詞表現、0 動態助詞

1. はじめに

中国語は、日本人の学習者にとって、確かに漢字の部分が易しく感じられると思われるが、実は、中国語の漢字と日本語の当用漢字の書き方、読み方及びその意味は、完全に同じものもあれば、全く違ったのも多く見られる。そして、なんとなく日本語の感覚で中国語の意味を理解しようとする学習者もたくさんいる。そういうわけで、様々な誤用が現われると思われる。よく見られる現象の一つは、動詞時制についての誤用である。

中国語の指導を行っている時、よく質問されるのは「日本語のテンスは一体中国語の何に当たるのか」、「中国語で過去を表現する時に動詞の後ろに「了」を付けるだけでいいのか」ということである。実は、どちらも答えにくい質問で、一言で説明できない質問である。中国語は文法形式としてのテンスを持たない言語で、日本語の述語が「ル形」と「タ形」という文法的な形式対立のテンス表現に対応するものは中国語に存在しないとされている（木村 1982）からである。日本語のテンスに対する中国語表現はどのようなものがあるかということをはっきりさせるため、この問題を研究することにした。

2. 先行研究

ある動作や状態について、過去・現在・未来など「時」が異なる場合、どのように表現するのかは、動詞の語形変化を中心に観察できる。本研究は日本語の動詞時制に対する中国語表現を考察することである。動詞時制について分析を行った研究には主に以下のものがある。

2.1 日本語の動詞「テンス」に関する先行研究

日本語の動詞「テンス」についてはこれまで多くの研究がなされている。50年代には金田一春彦 1950「国語動詞の一分類」『言語研究』がある。70年代には奥田靖雄（1977 アスペクトの研究をめぐって—金田一の段階—、『国語国文』）がある。80年代には尾上圭介（1982年「現代語のテンスとアスペクトをめぐって」『日本語学』）、高橋太郎（1985『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』）がある。90年代には工藤真由美（1995「アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—」）などがある。2000年以後の庵功雄（2001「テイル形、テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』）、井上優（2001「中国語・韓国語との比較から見た日本語のテンス・アスペクト」『月刊言語』）などがある。本稿は工藤（1995）、庵（2001）、井上（2001）を参考にし、日本語の動詞を外動的運動動詞、内在状態動詞に分け、それぞれ対応する中国の時制表現を考察し、分析を行った。

2.2 中国語の時制表現に関する先行研究

中国語の時間表現に関しては、テンス体系の有無、「テンスが動態助詞によって表される」と「テンスが時間を表す名詞や副詞によって表される」という理論の対立、などの問題が存在している。テンスの研究においては、動態助詞だけを取り上げた分析、または意味上の時間を表す名詞や副詞に注目した考察、あるいは単文と複文を同時に列挙してテンスを表すものがなにかを解明しようとする研究が多く見られる。

本研究では中国語の時制表現に関する先行研究は張秀（1957）、劉凡夫（1987）、李鉄根（1999）を参考にした。張（1957）は現在時・過去時・未来時によって構成される時制（テンス）体系が絶対時制であると認めていると同時に、関係時制が「不定時・完了時（決定時）・進行時・完了進行時（決定進行時）」によって構成されると述べている。劉（1987）は日本語の時制と中国語の時制の違いについて述べている。李（1999）は中国語の動態動詞「了、过」は「過去、前時」を表し、「着」は「現在、同時」を表すと述べている。李（1999）では「了、着、过」は絶対テンスと相対テンスの両方を表す機能およびアスペクトを表す機能を同時に持っていると考えている。

本稿の考察でこれらの中国語表現を検証し、それ以外にあるかどうかを考察により明らかにする。

2.3 動詞の分類に関する先行研究

テンス・アスペクトは、動詞の語彙的内容とも深く関わっているため、動詞の分類が必要となる。日本語の動詞分類について金田一（1950）と工藤（1995）が挙げられる。しかし、金田一（1950）の動詞分類は「～テイル」と一緒に使えるかどうか、一緒に使うとどういう意味になるかを基準にしているから、動詞分類が制約されている。それはこれまで

多くの研究者に批判されているため、本稿は新しい分類の工藤（1995）に従う。具体的な分類は以下の表 I のようである。

表 I 動詞分類（工藤 1995）

分類	下位分類	例 語
(A) 外的運動動詞	(A1) 主体動作・客体変化動作	温める、染める、解く、出す、買う等
	(A2) 主体変化動詞	着る、落ちる、行く、来る、死ぬ等
	(A3) 主体動作動詞	書く、会う、飲む、住む、食べる等
(B) 内的状態動詞	(B1) 思考動詞	思う、考える等
	(B2) 感情動詞	感心する、心配する等
	(B3) 知覚動詞	見える、聞こえる等
	(B4) 感覚動詞	疲れる、渴く等
(C) 静態動詞	(C1) 存在動詞	いる、ある、存在する等
	(C2) 空間的配置動詞	そびえる等
	(C3) 関係動詞	似る等
	(C1) 特性動詞	似合う等

3. 研究方法

日中動詞時制の表現の使用実態を把握するために、先行研究の章で言及した動詞の分類に従い、一橋大学の松岡弘・石黒圭両氏が収集した中国語母語話者の作文計 436 編と 1983 年～2002 年 10 年の間に一橋大学で文章表現に関連する上級レベルの授業に出席した学生が提出したものを考察対象に、文末に使用している動詞時制に関する「ル形」、「タ形」、「テイル形」、「テイタ形」を取り出し、分析を行った。また、それらの研究資料に対応する中国表現を取り出し、考察分析する。

まず、考察対象になっている参考資料を分析し、研究に関する動詞時制表現を文末から全て取り出す。

次に、工藤（1995）の動詞分類に従い、動詞別に日本語の動詞時制に対応する中国語の動詞時制について考察・分析を行う。

最後に中国語の動詞時制の表現について、動詞の種類別に考察、分析した結果をまとめて、中国語の動詞時制の表現形式と使い方を明らかにする。

4. 日中動詞時制表現についての対照研究

時制はテンスとも呼ばれ、文で表わされている動作・作用が発話時点よりも前（過去）か、それと同時か（現在）、それより後（未来）かを示す文法体系と概念のことである。英

語、ドイツ、韓国などの言語は日本語のように述語の活用形によって時制を表す。中国では基本的にテンスがなく、過去、現在、未来ともに同一の日本語の時制文で示し、時を表す語句によって時制を表す。日本語の時制は通常、動詞の語尾「行く、行った」や形容詞の語尾「高い、高かった」、名詞文では助動詞「だ」の活用「本だ、本だった」で表される。

現在あるいは未来の動作・事象・状態を表し、総称して「非過去形」「現在形」と呼ばれる。一方、過去や完了を表し、総称して「過去形」と呼ばれている。

アスペクトは、ある事象を、一つの過程の中でのあり方——完了か未完了か、継続的なものかどうか、始まるを表すのが終わりを表すのか——などを焦点として捉える文法手段である。

4.1 日本語と中国語のテンス・アスペクト表現

日本語の場合も中国語の場合も、時間を表す名詞（昨日／昨天、明日／明天、来年／明年…）と副詞（さっき／刚才、これから／此后、すぐ／马上…）などがある、それらによってテンスを表す。また、日本語では、動詞が語形の変化（タ形、ル形、テイル形、テイタ形など）を通じてテンスとアスペクトを表すことができる。しかし、時間を表す名詞や副詞が生じなくてもテンスが表せる日本語に対して、中国語の動詞は語形の変化こそ持たないが、テンスの場合は過去の出来事は「動詞＋了」で、現在の出来事は「動詞＋过」で表すことができる。アスペクトの場合は完了相を表すのに、動詞に助詞「了」を付加し、継続相を表すのに動詞に助詞「着」を付加し（あるいは、副詞「正在」だけが用いられる）、経験相を表すのに動詞に助詞「过」を付加するなど。すなわち、動詞の後ろに「了」、「着」、あるいは「过」などといった動態助詞が付くことによって、部分的でありながら同様な役割を果たしている。

工藤真由美（1995）によって、時間を表す名詞や副詞が生じない文における日本語のテンスとアスペクトの表し方について、次のような表が作成されている。

表Ⅱ 工藤真由美(1995, p. 182)

アスペクト テンス	個別・具体的			抽象的
	完成相	継続相	パーフェクト相	反復相
未来	スル	シテイル	シテイル	スル
現在	/	シテイル	シテイル、シタ	スル、シテイル
過去	シタ	シテイタ	シテイタ	シタ、シテイタ

表Ⅱから分かるように、日本語においては、文に時間を表す名詞や副詞などが生じない時、動詞の語尾変化でテンスとアスペクトを表すことができる。例えば、テンスの面において、動詞の「スル形」（普通形）によって非過去テンスを表すのに対し、動詞の「シタ形」

によって過去テンスを表すことができる。アスペクトの面において、動詞の「シテイル形」によって未来パーフェクト相を表したり、動詞の「シテイル形」と「シタ形」によって現在パーフェクト相を表したりして、動詞の「シテイタ形」によって過去パーフェクト相を表す。

しかし、中国語の場合、動詞の語尾変化がないため、テンスを表すのに、時間を表す名詞や副詞や動態動詞などに頼るしかないと思われる。アスペクトも日本語のように補助動詞構文によって表されることができず、動詞の後に付加される助詞によって表される。

4.2 「ル形」の基本的な用法は出来事が終結していないことや属性・状態が今、存在することを表す。

「ル形」は動詞の種類によって二つに分かれる。状態動詞の「ル形」は、現在の状態、内的動作動詞の「ル形」は、現在の思考・感情を表している。外的動作動詞・変化動詞が「ル形」をとると、現在、または未来の事象を表す。次の例文を利用し、分析してみる。

例文：

- (1) 明日、学校の食堂で昼ご飯を食べる。
中訳：明天在学校食堂吃午饭。
- (2) 午後は図書館で新着の雑誌を読む。
中訳：下午在图书馆读新来的杂志。
- (3) 来年、日本の東京大学へ留学する。
中訳：明年，去日本的东京大学留学。
- (4) あっ！前の信号が赤に変わる。
中訳：呀，前面的信号要变红灯。
- (5) 森の向こうに富士山が見える。
中訳：能看到森林对面的富士山。
- (6) 隣の教室から教科書を朗読する声が聞こえる。
中訳：听得见从教室里传来的读书声。
- (7) あの子は小さいのに、もう字が書ける。
中訳：那个孩子尽管小，但会写字。
- (8) 私は彼の意見は極端すぎると思う（考える）。
中訳：我认为他的意见过于极端。
- (9) 我々は彼の成功を信じる（祈る）。
中訳：我们相信他的成功（我们祝愿他成功）。
- (10) マリーさんは明日イギリスへ帰国する。
中訳：玛丽明天要回国了。

- (11) 「春節聯歡会」というテレビ番組がもうすぐ始まります。

中訳：春节联欢会的电视节目快要开始了。

(1) 「ル形」は未来(未然)と動作・変化を表す。

例文の(1)~(3)では、過去のある時点あるいは現在においても生起しておらず、未来に生起する出来事について述べられている。話者の注目するところは未来の出来事であるが、中国語と日本語とはと同様に原形の動詞が用いられている。

例文の(1)~(4)「食べる、読む、する、変わる」など動作や変化を表す動詞の辞書形は、基本的には、未来のこと、あるいはまだ完了していない、これからのことを表す。上の例文のように「明日、午後、来年」などの未来の時点を示す副詞を伴うといっそう明確になる。

(2) 「ル形」は現在の状態と現在の思考・感情を表す。

例文の(5)~(7)「見える」「聞こえる」「書ける」のような状態を表す動詞の「ル形」は、現在の状態を表す。

例文の(8)~(9)「思う、考える、信じる、祈る」のような思考・感情を表す動詞の「ル形」は現在の時点を表す。

日本語の「ル形」に対応した中国語は中国語の原形動詞を使う。中国語では同じく一般現在の文であるが、出来事は動詞の性質によって動作の出来事と状態（心理的）の出来事に分かれている。これらの文に共通しているのは、出来事が過去のある時点から始まり、現在もなお継続中であり、未来に続くかどうかを確認できないことであるが、話者の時間的焦点はあくまでも現在ということである、中国語の原形動詞は日本語の「ル形」動詞と同じように、現在あるいは未来の出来事について用いることができる。すなわち、中国語の原形動詞は（進行中の現在を除く）一般現在のテンスと未来のテンスを表せると考えられる。

一般的にいわれる原形動詞とは、動詞の後ろに「了、着、过」などの動態助詞が付いていない形（裸の動詞）、すなわち動詞そのもののことをいう。「動詞+了、着、过」に対して、形態的にこれを「動詞+0（ゼロ）」で表すことにすれば、動態助詞を統一的に扱うことができる（孫偉 2005）。そして、動態助詞「了、着、过」に対して、動詞の後ろになにも入らないときの形態を「0（ゼロ）動態助詞」と呼ぶことができる（孫 2005）。すなわち、日本語動詞の基本形とル形・テイル形が果たしている機能と同じように、中国語の一般現在と未来のテンスは動態助詞「0」によって表すことができると考えられる。

「0 動態助詞」が用いられている場合、時間が未来の範疇に属することを表す時間名詞・時間副詞が同時に用いられることが多い。これは、中国語における未来／現在を表す時間名詞・時間副詞と過去を表す動態助詞が、また過去を表す時間名詞・時間副詞と未来／現在を表す「0 動態助詞」が相容れない特徴をもつことによって決まるのである。

「ル形」の日本語を中国に翻訳する場合は普通には中国語の原形動詞をそのまま対応して訳す。またあるとき、新しい状況がまもなく、まさに発生しようとしていることを表す場合に「了」を文末か句末に使う（例文(10)~(11)）。このような使い方には、往々にして「動詞+目的語+了」の形式によって、前に「要」、「快」などの推量の助詞を用いて、一緒に使う形になることが多い。

日本語母語話者にとって、中国語を学習する時テンスといわゆる「了」の訳は非常に難しいようだ。動詞と同じく「ル形」の場合でも中国語で訳せば、中国語の原形動詞をそのまま対応して訳すこともあれば、中国語の「要……了」「快……了」などの構文を使うこともある。常態的な客観状況を述べ、新しい変化がない場合には中国語の原形動詞をそのまま対応して翻訳するしかない、新しい状況がまもなく、まさに発生しようとしていることを示す場合、即ちA状況からB状況に変わるとき、中国語の原形動詞をそのまま対応して訳すのなら、中国語の「要……了」「快……了」の固定形式の構文を使えばよい。しかし意味はやや違う。それらを表にまとめると次の表Ⅲのようになる。

表Ⅲ 客観状態・新たな状態の構文形式の対照

基本例文	現在・未来	中国語の訳文		基本形	構文 (要…了)
八時に学校が始まる	ル形	客観状況 (基本形)	学校八点开始(上课)	○	×
寮でテレビを見る			在宿舍看电视	○	×
明日大阪に出張する		新たな変化 (固定構文)	明天去大阪出差 明天 <u>要去大阪出差了</u>	○	○
列車は新宿にとまる			列车停在新宿 列车 <u>要在新宿停了</u>	○	○

4.3 「タ形」の基本的な用法は過去・完了の意味を表す。

次の例文のように、過去や完了を表す時、動詞の「タ形」を使う。すなわち遠い過去から直前の過去まで含めて（そのちがいは副詞にまかせて）、すべて過去、つまり発話時以前を表す。状態動詞の「タ形」は、過去の状態を、動作動詞、変化動詞の「タ形」は、過去の動作などの過去の出来事を、事象時から捉えている。

- (12) この地方は10年間に二度も大震災を経験した。(過去)
 中訳：这个地方，在这10年间，已经发生了两次以上的大地震。
- (13) 昨日駅前で交通事故があった。(過去)
 中訳：昨晚，在站前发生了交通事故。
- (14) 私は映画のチケットを二枚買った。(完了)
 中訳：我买了两张电影票。

(15) 彼はすでに友達に知らせた。(完了)

中訳：他已经告诉朋友了。

(16) もうご飯を食べましたか。(完了)

中訳：已经吃饭了吗？ / 已经吃过了吗？ / 已经吃过饭了吗？

例文の(12)~(16)のように、出来事が一つしかない場合、話者が「現在」という時間の位置に立って、出来事の発生時間を考えることになる。無論、出来事の時間を分析するとき、テンスの問題だけでなく、アスペクトの問題も伴っているが、ここでは考えないことにする。このとき、動作の進行過程あるいは状態の持続過程を持っている出来事であるか否かを問わず、話者が注目しているのは、出来事が過去に完了したという点である。すなわち、出来事のテンスが過去であることは、日本語では、「タ形」によって表されている。この過去を表す日本語の「タ形」には、中国語の「了」が対応している。

中国語の動態助詞「了」が動詞の後ろについているときに、明確な時間を示す時間名詞がない場合は、動作が「発話時に完了した」、「完了している」と考えられる。「了」は直近過去を含む過去のテンスを表すことができる。すなわち出来事のテンスが過去であることは、動態助詞「了」によって表されている。この過去を表す中国語の「了」には、日本語の「タ形」が対応している。そのほかに、訳文(16)のように中国語の動態助詞「过」も「動詞+过了」あるいは「動詞+过+目的語+了」の形式によって、動作が「発話時に完了した」、「完了している」の意味を表す。

注意すべきこととして次のような現象もある。過去のことを表すときすべて「了」を使ってしまうことである。確かに過去のことを言うのであるが、「了」を使ってはいけないケースがある。それらを表にすると次の表IVのようになる。

表IV 過去を強調・確認する「了」の正誤訳文の対照

例 文	誤った訳文	正しい訳文
彼は去年上海へ行った 彼は去年上海へ行ったのだ	他是去年去美国了	他去年去上海了（一般） 他是去年去上海的（強調・確認）
田中さんは昨日中国に来た 田中さんは昨日中国に来たのだ	田中是昨天来中国了	田中昨天来中国了（一般） 田中是昨天来中国的（強調・確認）
李さんはおとし帰国した 李さんはおとし帰国したのだ	小李是前年回国了	小李前年回国了（一般） 小李是前年回国的（強調・確認）
王さんは去年著書を出版した 王さんは去年著書を出版したのだ	小王是去年出版了专著	小王去年出版了专著（一般） 小王是去年出版的专著（強調・確認）

表IVの例文の中の「来る」「行く」「帰国する」「出版する」などというような動作が行われる場所、時間、方式などを確認し、強調する場合、過去に済んだことであっても「了」を使わず、中国語の「是……的」の構文を使わなければならない。

またある文が状態動詞の「タ形」で、あることが完了して、いまその状態になった表す場合がある。

(17) 朝ごはんを食べなくて、お腹がすいた。

中訳：没吃早饭，饿了。

(18) さんざん苦労した結果、彼は立派な経営者になった。

中訳：经过辛勤努力，他成为了出色的经营者。

例文の(17)(18)のように、今その状態になったことを表している。中国語で対訳すれば、また、過去の意味の「了」を使う。この場合の意味は単純な完了の意味ではなく、状態の意味を持っている。

4.4 「テイル形」の基本的な用法は動作の進行・既然の結果・状態などを表している。

動作動詞のテイル形は、現在進行中の動作、変化動詞では、過去に発生した動作を発話時から捉えている。日本語の「テイル形」に対応した中国語は対訳する場合には中国語の動態助詞「着」を使う。中国語の動態助詞「着」は動詞の後ろに用いられ、動作の進行中あるいは状態の持続中を表す。文中に時間副詞の「正、正在」、文末に文末助詞「呢」が現れる時もある。

(19) 田中さんは今、ご飯を食べています。

中訳：田中现在正吃着饭（正吃饭呢）。

(20) グラウンドでは、子供たちが色々な運動をしています。

中訳：运动场里，孩子们正在做着各种运动

(21) 停電のため、どの家も電気が消えています。

中訳：由于停电，各家的灯都关着呢（都关着灯呢）。

(22) あっ こんなところに財布が落ちている。

中訳：呀，钱包（正是）掉在这里（这样的地方）了。

(23) 桜が咲いている。

中訳：樱花开了（正开着呢）。

(24) 天候不順で野菜の高値が続いている。

中訳：由于天气异常，蔬菜的价格居高不下。

(25) テレビ放送のデジタル化には未解決の難題が山積している。

中訳：在电视广播的数字化方面，尚未解决的难题积压了很多。

(19)と(20)は動作が今行われていること、また(21)と(22)と(23)はその状態が現在も続いていることを表している。

またもし文中に時間を表すものがなければ、中国語の動態助詞「了」を使って、「文末+了」の形式で（例文(21)～(23)）、状態が変化したというアスペクト的意味を表すと同時に、現時点を含意するというテンス的意味（＝非過去）も表すことができると思われる。

中国語の動態助詞の「着」はそれぞれ動作の進行中、動作完了後の持続中の状態を表している。それぞれの文に使われている動詞の種類が異なっているが、動詞が表している動作の時間が現在であることは同様に（日本語のテイルに相当する）「着」によって示されている。

例文(24)と(25)は今、世の中で起こっていることを伝えるものだから、新聞やテレビに「テイル形」が多用されている。

但し、「テイル形」はこれ以外、次のような用法もある。

1. これらは常にその状態にある。そういう意味の日本語を中国に翻訳する場合は普通には中国語の原形動詞をそのまま対応して訳す。あるいは中国語の動態助詞の「着」によって、「動詞+着」の形式で常にその状態にあることを表す。

(26) この道は曲がりくねっている。

中訳：这条路蜿蜒曲折。

(27) 富士山が高く聳えている。

中訳：富士山高高地耸立着。

2. 経験を表す。通常、過去を表す言葉と一緒に使う。そういう意味の日本語を中国に翻訳する場合は動態動詞「过」を使う。「動詞+过」の形式でかつてこのような出来事があったことを表せる。普通には出来事は過去の時間に生起する。

(28) 彼とは、何年か前に一度会っています。

中訳：在几年前和他见过面。

(29) その映画は、先週見っています。

中訳：那部电影上周看过。

3. 繰り返しの動作を表わす。そういう意味の日本語を中国に翻訳する場合は動詞の前に「经常」、「往往」、「总是」などの頻率を表す副詞と一緒に使う。

(30) 夜はいつもミルクを飲んでいます。

中訳：晚上经常喝牛奶。

(31) このところ、毎日友達が家には来ています。

中訳：这期间，朋友每天总是来家里。

4.5 「テイタ形」の基本的な用法は過去の動作の進行・過去の結果残存・過去の状態などを表す。

動作動詞の「テイタ形」は、進行中の動作、変化動詞は、完了した動作の結果を、過去のある時点から捉えている。状態動詞の「テイタ形」は過去完了の状態・結果を表す。

(32) マリーは日記に「東京へ行く」と書いていた。

中訳：玛丽在日记上写了“去东京”。

(33) その人の名前を忘れていました。

中訳：我把他的名字忘了。

(34) スミスさんは日本の東京に五年住んでいた。

中訳：史密斯先生在日本东京住了五年。

(35) 戦争が始まる前に彼は中国に来ていた。

中訳：战争开始前他就来中国了。

(36) 前はこんなスーツがほしいと思っていたんです。

中訳：以前我就一直想要这样的套装了。

(37) 遠い昔には日本の映画を見ていた。

中訳：很久以前我就看过日本的电影了。

(38) 去年のその頃は桜がもう咲いていたよ。

中訳：去年这个时候樱花就已经开了。

日本語の「テイタ形」に対応した中国語で対訳する場合は過去・完了（例文(32)～(34)）を表した中国語の動態助詞「了」を使う。また「時間名詞＋就＋了」という組み合わせが揃うと文末の「了」は「発話時」ではなく「基準時」の状態になる。その場合、文末の「了」は過去完了の状態・結果（例文(35)～(38)）を表すと思われる。

5. まとめと今後の課題

本稿は日本語の動詞時制と中国語の動詞時制と比較しながら考察した。考察・分析結果を以下のようにまとめる。

- (1) 動詞テンスを表わす時、日本語は「形」で表わすが、中国語は意味を重視し、時間を表す言葉、動態助詞「着」、「了」、「过」及び言語環境によって表す。
- (2) 「ル形」は動詞の種類によって二つに分かれる。状態動詞の「ル形」は、現在の状態、内的動作動詞の「ル形」は、現在の思考・感情を表している。外的動作動詞・変化動詞が「ル形」をとると、現在、または未来の事象を表す。日本語の「ル形」に対応した中国語は中国語の原形動詞を使う。すなわち、中国語の原形動詞は（進行中の現在を除く）一般現在のテンスと未来のテンスを表すことができる。
- (3) 動詞の「タ形」は過去や完了を表す時に使う。日本語の「タ形」に対応した中国語は対訳する場合には過去・完了を表した中国語の動態助詞「了」を用いて表す。

- (4) 動作動詞の「テイル形」は、現在進行中の動作、変化動詞では、過去に発生した動作を発話時から捉えている。日本語の「テイル形」に対応した中国語は対訳する場合には中国語の動態助詞「着」を用いて表わす。文中に時間副詞の「正、正在」、文末に文末助詞「呢」が現れる時もある。
- (5) 動作動詞の「テイタ形」は、進行中の動作、変化動詞は、完了した動作の結果を、過去のある時点から捉えている。日本語の「テイタ形」に対応した中国語で対訳する場合は過去・完了を表した中国語の動態助詞「了」を使う。

本研究を通じて、中国語の単文において、動態助詞「了」と「过」は過去のテンスを、「着」は（進行または継続中にある）現在のテンスを、「O 動態助詞」は一般現在または未来のテンスを表すということが確認できた。すなわち、中国語単文のテンス体系は基本的には語法表現によって表されるが、必要に応じて動態助詞を省略し、語彙表現だけで表される場合もあるということである。

本研究は例文資料を考察した結果から中国語の動詞時制表現が多様であることが判明した。特に動詞述語の過去表現は個人差と言語環境などの影響がある。そのため、得られた結論は日中両言語の違いの全てとは言いがたいと思われる。今後は本研究の結論に基づいて、会話データなどの話し言葉も考察しようと思っている。また、本研究は文末の動詞時制だけに注目したが、今後動詞時制の他の用法にも広げて行きたいと思っている。

参考文献

- 金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」『言語研究』15
- 張秀（1957）「中国語動詞のAspectとテンスの体系」『中国語言語学情報 2 テンスとAspect I』好文出版
- 奥田靖雄（1977）「Aspectの研究をめぐって—金田一的段階—」『国語国文』8
- 小矢野哲夫（1978）「動詞「走る」のAspectとテンス」『国語学』112
- 紙谷栄治（1979）「終止用法におけるテンスとAspectについて」『国語学』118
- 呂叔湘（1980）「現代汉语八百词」『商务印书馆』
- 尾上圭介（1982）「現代語のテンスとAspect」『日本語学』1巻2号、明治書院
- 高橋太郎（1985）『現代日本語動詞のAspectとテンス』国立国語研究所、秀英出版
- 劉凡夫（1987）「日本語の「タ」と中国語の「了」の対照研究—動詞への接続を中心に」『国語学研究』通号27
- 工藤真由美（1995）『Aspect・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』ひつじ書房
- 木村英樹（1997）「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』東方書店
- 李鉄根（1999）『現代漢語時制研究』遼寧大学出版社

- 刘月华・潘文娒（2000）『現代中国語文法総覧』相原茂等訳くろしお出版
- 庵功雄（2001）「テイル形、テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』第4号
- 井上優（2001）「中国語・韓国語との比較から見た日本語のテンス・アスペクト」『月刊言語』12月号
- 張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉 20 例』スリーエー出版
- 劉琛琛（2005）「日本語の「た」と中国語の「了」との対照研究」熊本大学文学研究科修士論文
- 孫偉（2005）「中国語複文の時間表現について」『杏林大学大学院論文集』第2号

（よう えいけん 言語社会研究科外国人研究員）